

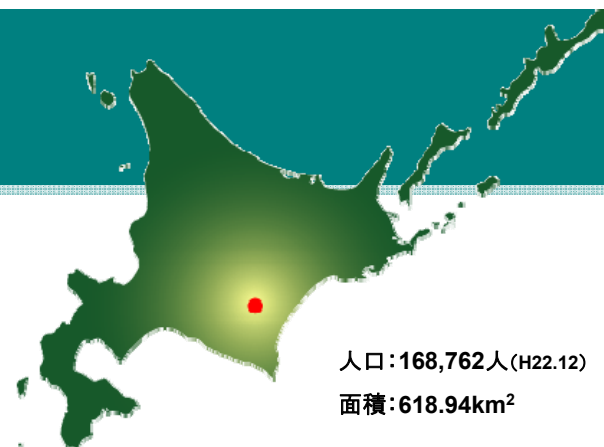
帯広市における 地域を巻き込む交通環境改善

第4回EST普及推進フォーラム

平成23年2月7日

帯広駅モビリティ・センター運営協議会

帯広市における多様な取り組み



人口:168,762人(H22.12)

面積:618.94km²

平成13年度	「帯広市バス交通活性化基本計画」策定 - 調査分析から今後のバスサービスを検討
平成14年度	「基本計画」を受けた新交通システムの検討 - 乗合タクシーの需要予測・具体案などの作成
平成15年度	公共交通サービスの実証実験 - フレックスバス・乗合バス
平成16年度	公共交通サービスの展開 - 東地区フレックスバス実証実験 - 農村部大正地区乗合バス本格運行 - 農村部川西地区調査・検討
平成17年度	公共交通サービスの展開 - 農村部川西地区乗合バス本格運行
平成18年度	帯広圏総合都市交通体系調査 - 広域圏マスタープランの策定 市街地路線バス網の再編 - 公共交通の需要予測 - 迂回型デマンドバス区間の選定 - ターゲットを選定・MM実施への準備
平成19年度	廃油回収とBDFによるバス運行実験 - バス車内での廃油回収 - BDFでのバス運行実証実験(以後本格導入) モビリティ・センターの設置・デマンドバス運行 - 市内バス路線を管理・運営していく主体としてモビリティ・センターの必要性を確認 - 一部需要応答型の路線を導入 小学校でのMM(出前講座) - BDF車輛を持ち込んだ出前講座の実施(以後継続的に実施) - 実施校におけるバス利用促進効果を実証 住民を対象としたワンショットTFP - 住民に対するモビリティ・マネジメントの効果を実証

平成20年度	「帯広市地域公共交通総合連携計画」の策定 - 調査分析により、新規路線案を決定 - ソフト施策(利用促進策・ツールの充実など)の推進に向けた計画作成
平成21年度	帯広市地域公共交通活性化・再生総合事業
平成20年度	「帯広市地域公共交通総合連携計画」の策定 - 調査分析により、新規路線案を決定 - ソフト施策(利用促進策・ツールの充実など)の推進に向けた計画作成
平成21年度	帯広市地域公共交通活性化・再生総合事業 - 新規路線の運行と利用促進(バスマップ+行動プラン法) - 高齢者学級での出前講座 - かわら版の配布 低炭素地域づくり面的対策推進事業 - 通勤時のバス利用促進に向けた調査(企業・従業員) - コンパクトシティの形成に向けた調査(住民) - CO2削減量の算定 EST普及推進事業 - 市内全路線を網羅したマップの作成・全戸配布 - 地域イベントとの連携による普及啓発の実施
平成22年度	帯広市地域公共交通活性化・再生総合事業 - 新規路線の一部運行計画の変更検討 - 高齢者学級での出前講座 低炭素地域づくり面的対策推進事業 - 通勤時のバス利用促進に向けた計画作成 - コンパクトシティの形成に向けた計画作成(バスサービスレベルの向上・情報提供) 一村一炭素おとし事業 - モビリティ・センターの再開 - 路線バスとレンタサイクルの連携(車内持ち込み)による新たな観光プランの実証 - 観光バスの運行

エコバスセンター“りくる”の開設

市内交通（および観光）の総合案内所、公共交通の利用促進拠点...

→域内の「モビリティ（移動）」を多方面から支援する拠点

- H19: 試験的に開設(NEDO事業)
 - デマンド型運行の予約受け
 - 廃食油(てんぷら油)の回収拠点
 - 交通と環境に関する啓発(情報)発信拠点



- H21: 新たな取り組みを加えて再開(北海道一村一炭素おとし事業)
 - 路線バスに持ち込み可能なレンタサイクルの貸し出し
 - 周遊(観光)バスの企画・案内・チケット販売拠点
 - 公共交通の利用促進に資する情報の作成・発信拠点



バス事業者だけでも、行政だけでもない存在の意義
: 多様な主体との連携が可能
: 事業者や行政の“かゆいところ”に手が届く



てんぷら油の域内循環

● 廃食油（てんぷら油）の回収と活用のサイクル

- 他の団体(取り組み)による「植栽活動」
(イエローリボンプロジェクト)
- 十勝全域での、ひまわりの植栽と種の回収



なたね・ひまわり

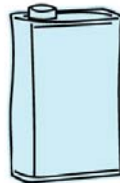


CO2



燃料の
バス利用

植物油



植物油の利用



バイオ
ディーゼル
燃料の精製



廃油回収



- バス車両4台でのBDF活用
- 年間CO2削減量約600t/年



- バス車内(全路線バス車両)
- りくる(モビリティ・センター)
- 市内スーパー・GS
- 小学校・公民館 等

★現在の回収量: **約10万リットル**

地域内の
新たな循環モデル
が構築されている

てんぷら油の回収がバス利用につながる！？

● 廃食油回収への協力と公共交通利用の関係

(H19アンケート結果より)

廃食油(てんぷら油)の回収に
「協力した人」と「協力しなかった人」を比較すると・・・

「協力した人」は「協力しなかった人」よりも

- 自動車の利用傾向(頻度)が低い
- 路線バスの利用傾向(頻度)が高い

「協力した人」は「協力しなかった人」よりも

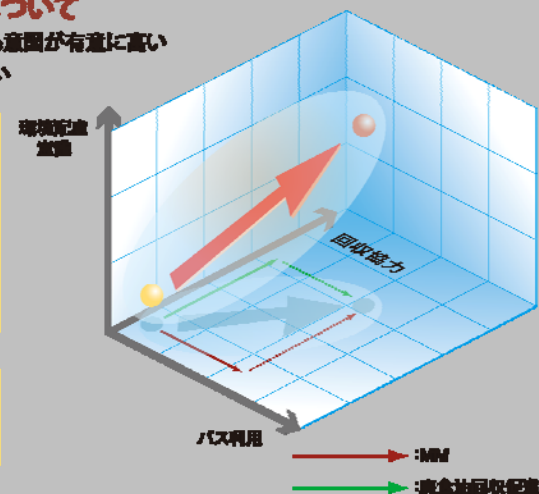
- 自動車の利用抑制意図が高い
- 自分にとっても、まちにとっても
「バスが必要だ」と感じている

● 協力者と非協力者の相違について

- ・環境に配慮した交通行動を選択する意図が有意に高い
- ・路線バスの必要性認知が有意に高い

廃食油のリサイクルと公共交通利用意図の間には正の相関があることが予想される。
「回収協力」、「バス利用」共に『環境配慮意識』と正の相関があるため、結果的に「回収協力」と「バス利用」に相関が見られたと考えられる。

廃食油回収とMMの「合わせ技」により、環境配慮意識の向上がより一層期待できる。



環境配慮行動の一つである「廃食油回収協力」を推進することが、
路線バスの利用の促進につながる可能性がある！

その他の取り組み・・・

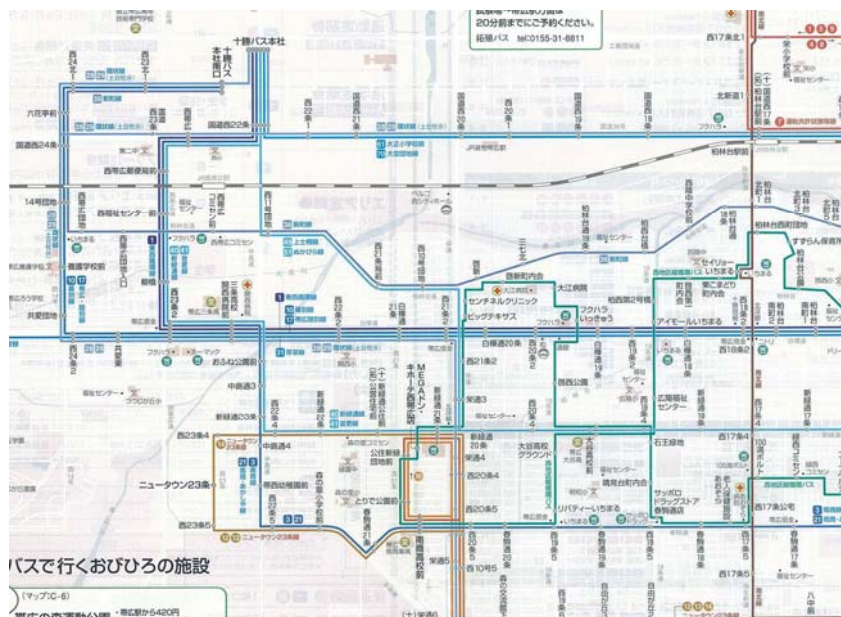
● 環境問題教室の継続的開催

バス事業者・BDF製造業者・帯広市・運輸局が連携して実施



- 交通と環境についての座学
 - 路線図・時刻表の見方(実車)
 - 駅や図書館などへのバスでの行き方
 - BDFの“クリーンさ”を実際に体験
(排ガスのにおいを直接かぐ！)
- 小学生だけでなく、中学生、高齢者にも対象が広がる。

● 分かりやすいバスマップの全戸配布



- 市内を運行するバスの情報を網羅
- ひとつ一つの路線が追いやすようなデザイン
- 体系的に整理された時刻表(冊子)
- 主要施設最寄りバス停の表示
- バスの乗り方案内
- お得な乗車券の案内 等

→翌年度には、北海道新聞が発行する「帯広市内路線バスマップ」に採用され、継続的な活用が実現